

岬龍一郎著「人生の師を見つけよう - 歴史のなかにキラリと光る人々 - 」

PHP 研究所 2008年12月22日刊を読む

1. 修身齐家治国平天下。格物致知誠意正心(大学)とは

(1) 古の明德を天下に明らかにせんと欲する者は、先ずその前に国を治める。その国を治めんと欲する者は、先ずその前に家を齊える。その家を齊えんと欲する者は、先ずその前に身を修める。

(2) その身を修めんと欲する者は、先ずその前に心を正しくする。その心を正しくする者は、先ずその前に意を誠にする。その意を誠にせんと欲する者は、先ずその前に知を致す。知を致すは物に格るに在り。

【意識】

(1) 遠き昔、英明な徳を天下に明らかにしようとした者は、まず一国の明君としてその国を平安に治めた。一国を平安に治めようとした者は、その前に一家の長としてその家族をよくまとめた。家族をよくまとめようとした者は、その前に自らを律し修めた。

(2) 自らを律し修めようとした者は、それに先だって自分の心を正しくした。自分の心を正しくしようとした者は、さらにその前に自分の意志を誠実にした。自分の意志を誠実にしようとした者は、さらに先だって自分の知識や智恵を極めた。知識や智恵を極める方法は、物事の道理を正しく受けとめることにあった。

P36 ~ 37

2. 儒教が教える5つの徳 - 「仁・義・礼・智・信」(五常)とは -

さて、以上の徳目を現代風にいうなら、「人にはやさしくあれ」「弱い者をいじめな」「人に迷惑をかけるな」「正直であれ(嘘をつくな)」「卑怯なことはするな」「礼儀正しくあれ」「身だしなみを整えろ」「約束を守れ」「時間を守れ」「信用をなくすな」など、まだまだたくさん出てくるはずだ。試みに人が人として守らなければならない徳にどのようなものがあるか、自分で考えてみることも修業になるだろう。

要するに「自分を鍛える」とか「己を磨く」とかいうのは、この徳を日々日常の中で実行することをいう。その意味で『論語』は書物において基本的な人格形成を培ってくれる師といえるのである。

3. 橋本左内「啓発録」の5つのテーマ

1. 稚心を去る

2. 気を振るう(振気)

- 3．立志
- 4．勉学
- 5．交友を選ぶ

この5項目をテーマとして述べたものだが、驚くなかれ、これを記したのが元服を迎えた15歳のとき、「立派な大人になるために」と自らを啓発したというのだ。

4．鉄舟20訓(山岡鉄舟の訓戒)とは

- 1．嘘をいうな。
- 2．君の御恩を忘れるな。
- 3．父母の御恩を忘れるな。
- 4．師の御恩を忘れるな。
- 5．人の恩を忘れるな。
- 6．神仏と年長者を粗末にはいけない。
- 7．幼者を^{あなど}侮るな。
- 8．自分の欲しないことを人に求めるな。
- 9．腹を立てるのは道に合ったことではない。
- 10．何事につけても人の不幸を喜んではならない。
- 11．力のおよぶかぎり善くなるように努力せよ。
- 12．他人のことを考えないで、自分の都合のよいことばかりしてはならない。
- 13．食事のたびに農民の辛苦を思え。すべて草木土石でも粗末にはいけない。
- 14．ことさらお洒落^{しゃれ}をしたり、うわべを繕^{つくろ}うのは、わが心に濁りあると思え。
- 15．礼儀を乱してはいけない。
- 16．いつ誰に対しても客人に接する心掛けであれ。
- 17．自分の知らないことは、誰でも師と思って教えを受けろ。
- 18．学問や技芸は富や名声を得るためにするものではない。己を磨くためにあると心得よ。
- 19．人にはすべて得手、不得手がある。不得手を見て一概に人を捨て、笑ってはいけない。
- 20．己の善行を自慢して人に報^{しら}せるな。我が行いはすべて我が心に恥じぬために努力すると
思え。

(現代語訳)

P50 ~ 51

[コメント]

本当に大事なことを教えてくれる先人の言葉をまとめた、岬龍一郎先生の新著は、何回読んでも一語一語すべて毎日の生活に参考になる。

- 2009年2月8日林明夫記 -